

第十一回

八戸市公民館特別企画演劇公演

# ふたりのビッグショー!

【企画・制作】  
演劇集団ごめ企画  
【舞台美術】木村勝一

マエストロ  
～熟練の巨匠コラボ～

榎谷  
伸夫

長谷川  
等

第一部

作・演出 / 榎谷伸夫  
南部弁 vs 津軽弁の二人芝居

## こっただ面接 あるわバァねェ

シニア世代対象の、とある就職面接会場。  
南部弁を話す男1が面接にやってくる。  
面接担当官は津軽弁を話す男2。  
合格を願い、必死に語りかける男1に対し、  
のらりくらりと受け流す男2。  
南部弁と津軽弁が飛び交う笑劇になってしまいそう。  
さて、結末は……?  
※令和5年10月14日  
日本の危機言語・方言サミット 与那国島大会で上演

第二部

作 / 工藤千夏 演出 / 榎谷伸夫  
太宰治著『富嶽百景』『帰去来』『津軽』より

いぶせ ますじ

## 『井伏鱒二放屁事件』

昭和14年。上野駅近くの蕎麦屋。  
美知子と順風満帆の新生活をスタートさせたはずの太宰治が、また何かやらかした!?  
金木の津島家に頼まれ、鎌倉心中から昭和14年の今に至るまで、  
太宰が引き起こす事件の後始末をし、彼の面倒を見続けてきた後見人、北と中畑は、  
上野のとある老舗蕎麦屋で密談を始めた……。

職務経歴書

1日目(夜公演)

2日目(昼公演)

会場

SG GROUP ホールはちのへ  
(八戸市公民館ホール)

※会場にお客様用駐車場はありません。  
近隣の有料駐車場をご利用ください。

入場券：自由席/税込

※鑑賞する公演日のチケットをご購入ください。  
※前売りで完売した場合、当日券販売は行いません。

一般：2,000円(当日2,500円)  
高校生以下：1,000円(当日1,500円)

令和8年

5月22日(金)

19:00開演

※開場時間は各日30分前

23日(土)

14:00開演

※未就学児入場不可。

チケット売場

※各売場とも、お電話での予約はできません。

- ・八戸ポータルミュージアムはっち
- ・ラピアインフォメーション
- ・八戸市南郷文化ホール
- ・SG GROUP ホールはちのへ (八戸市公会堂)
- ・GETTIIS (ゲッティーズ・Web販売)



GETTIIS  
販売ページ

主催：SG GROUP ホールはちのへ 【お問合せ】 SG GROUP ホールはちのへ (八戸市公民館)  
[指定管理者：(株)アート&コミュニティ] 〒031-0075 青森県八戸市内丸1丁目1-1

☎0178-45-1511



## 公演に寄せて / 文 榎谷 伸夫 (出演)



### 第一部 『こっただ面接あるわけアねエ』

当初、深浦出身で、津軽弁の優れた話者の学生がいた八戸学院大学演劇部のために書き下ろしたものだ。残念ながら南部弁話者がいないため、津軽弁 VS 共通語の舞台になった。その後、令和5年開催の「日本の危機言語・方言サミット 与那国島大会」に方言での演劇を依頼されたので、榎谷の大好きな津軽の俳優長谷川 等さんに声をかけ、当初考えていた、ネイティブ南部弁 VS 津軽弁の舞台がようやく実現した経緯がある。舞台での面接のやり取りはもちろん、南部弁と津軽弁の似ているところ、全く違うところを楽しんでいただきたい。余計なことだが、77歳の榎谷・78歳の長谷川。ベテラン俳優による丁々発止の舞台。さて、どんな舞台になりますやら。

### 第二部 『井伏鱒二放屁事件』

津軽平野のど真ん中、旧金木村大豪農津島家出身の太宰 治の「走れメロス」「津軽」等をご存じの方は多いはず。井伏鱒二は太宰ほどではないだろうが「山椒魚」、原爆を落とされた広島を舞台にした「黒い雨」はご存じかも。彼は文壇の長老であり、我が八戸出身の芥川賞作家三浦哲郎との師弟関係は有名。三浦の紹介だろうが、八戸を訪れ、種差海岸を愛でている。さて、話を太宰に戻そう。自殺事件を起こすなど、女性問題等で

奔放な生活を送っていた太宰。心配した津島家は東京での太宰のお目付け役を用意することになった。一人は津島家に入入りしていた五所川原の呉服商：中畑慶吉。もう一人は、衆議院議員に当選した太宰の長兄文治のために、父源右衛門が文治の学生服の新調をさせて以来懇意にしていた、東京品川でテラーを経営し、警視庁出入りの御用商人：北芳四郎だ。この2人は、たびたび事件を起こす太宰の尻ぬぐいに奔走する生活を送っていた。

今回は、雑誌「文体」の太宰著「続 富嶽百景」に、太宰が「富士山の頂上で、岩に腰をおろした井伏が放屁なされた」と書いたことに、井伏が激怒し太宰を出禁にしたという事件で、北と中畑の解決に向けての密談である。

## 原案の小説家たち / 『井伏鱒二放屁事件』

**井伏 鱒二** 明治31年2月15日～平成5年7月10日

小説家。本名：井伏 満壽二(いぶしますじ)

広島県安那郡加茂村(現福山市)出身。

代表作は『山椒魚』『黒い雨』、『ドリトル先生』シリーズの翻訳も手がけた。弘前高校在学中に、『山椒魚』に感銘を受けた太宰は、井伏に手紙を送った。太宰は井伏を兄のように慕い、生涯において師弟関係であった。

**太宰 治** 明治42年6月19日～昭和23年6月13日

小説家。本名：津島 修治(つしま しゅうじ)

青森県北津軽郡金木村(現在の五所川原市金木町)に、県下有数の大地主である島津源右衛門とたね(夕子)の六男として生まれた。自殺未遂や薬物中毒を繰り返しながらも、第二次世界大戦前から戦後にかけて作品を次々に発表。



## 演者プロフィール



**榎谷 伸夫** 脚本家/俳優

八戸市公民館特別企画演劇公演での執筆台本『あかつきぼし』/『我が内なるラピュータ』/『約定の城～九戸城異聞』/三浦哲郎著『ユタと不思議な仲間たち』より『スカシユリの丘の向うへ』/三浦哲郎短編集『真夜中のサーカス』より『真夜中のサーカス』/『私説もと子』/一人芝居『～老漁師吉田正吉が語る鮫村異聞～海村』……なお『海村』は令和6年8月に東京両国シアターXで上演。再演の要望があり令和7年5月八戸市公民館ホールで最終上演。他に、安藤昌益一人芝居『出立つ日』も一昨年上演。今年13回目を迎えたうみねこ演劇塾ではシニア塾・ジュニア塾の台本・演出を担当中。この他、南部昔語り部養成講座や市内外の小中学校・地域公民館・ブックセンターその他で南部昔語りや南部弁の面白さの伝承活動中。



**長谷川 等** 俳優

公演数36回を数える、浪岡演劇研究会々長。演出の傍ら、そのすべてに出演している。彼の活動範囲は広く、青森県立美術館での演劇公演やリーディング公演/県民参加型演劇公演/弘前の演劇集団公演/渡辺源四郎商店公演等々、その独特な芸風が慕われ、引く手あまたである。

榎谷との共演は、渡辺源四郎商店『青森に落ちてきた男』『法螺貝を吹いたら川を渡れ』公演の時、東京下北沢スズナリ・青森で共演している。また、昨年12月源四郎商店稽古場で開催された・北のまほろば祭りでの一人芝居/高木恭三『或るめぐらの話』は出色であった。